

英語教育相談室

Mitsumura
English Teachers' Resources
COLUMBUS 21

児童用教材



2018年
12月
発行!

小学校英語 はじめての アルファベット練習帳

本体250円+税 / ISBN 978-4-8138-0103-0

小学校3年生から使えます。
何度も書いて消せる練習シートや、
ヘボン式ローマ字の練習ページ付き。

指導用教材



2019年
1月
発行!

小学校英語 学校掲示物セット

本体5,000円+税 / ISBN 978-4-8138-0104-7

掲示できる英語ポスターと
カードで、校内が英語の空間に
早変わり。(音声QR付き)



2019年
1月
発行!

小学校 教室英語 ハンドブック

本体900円+税 / ISBN 978-4-8138-0102-3

担任の先生が授業で使う
クラスルーム・イングリッシュを
ハンディな一冊に。(音声QR付き)



英語教育相談室
Mitsumura English Teachers' Resources
COLUMBUS 21
| No. 04 |

2018年11月28日発行

発行人 ● 小泉 茂

発行所 ● 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話 ● 03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp

E-mail ● koho@mitsumura-tosho.co.jp

デザイン ● Better Days (大久保裕文+深山貴世)

イラスト ● 小林 マキ 編集協力 ● 株式会社エスクリプト

印刷所 ● 株式会社 加藤文明社

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

広報誌の配送停止のご希望は、光村図書出版までご連絡ください。



光村図書

旅のことば

沢木耕太郎

こう使う! COLUMBUS 21

山梨県都留市立
都留第一中学校

子どものための

BOOK GUIDE

SKELETON HICCUPS



特集

『We Can!』どう使う?

京都市立九条塔南小学校・長野県小諸市立東小学校



沢木耕太郎
さわき こうたろう

ノンフィクション作家・エッセイスト・小説家。1947年、東京都生まれ。横浜国立大学経済学部卒業。ほどなくルポライターとして出発し、1979年『テロルの決算』(文藝春秋)で大宅壮一ノンフィクション賞、1982年『一瞬の夏』(新潮社)で新田次郎文学賞を受賞。26歳のときに香港からロンドンまでを旅した自らの旅行体験に基づく『深夜特急』(新潮社)は、バックパッカーのバイブルとなった。

世界が開ける

私は普通の中学生であり高校生であったので、英語の授業があまり好きではなかった。だから、ほとんど勉強もせず、大学入試のためにほんの少し単語を覚えてくらいだった。

大学に入っても、まったく勉強しなかったから、英語を話せないのはもちろんのこと、ろくに英文も読めなかった。

そんな私がフリーランスのライターとなり、仕事でハワイに行ったのは二十四歳のときだった。

ある日、年長の日本人建築家と、その夫人である彫刻家と、ワイキキにあるシーフード・レストランで食事をするようになった。

出されたメニューから、サラダとメインディッシュとして白身魚のムニエルを注文すると、ウェ이터に何か訊ねられた。まったくわからなかった私が困惑していると、彫刻家の夫人がやさしい口調で教えてくれた。

「サラダのドレッシングはどうするのか訊いているのよ」

私は恥ずかしくなり、慌ててフレンチ・ドレッシングはありますかと訊ねた。

「イズ・ゼアー・フレンチ・ドレッシング？」

すると、今度はウェ이터の方がまったくわからないと困惑したような顔になり、助け舟を求めるように彫刻家の夫人を見た。

それを受けて、彫刻家の夫人が私にまたやさしく言った。「そういうときは〈HAVE〉を使えばいいのよ。あなたは何々を持っていますかと訊ねるの」

言われたとおり、「ハヴ・ユー・フレンチ・ドレッシング？」と訊くと、ウェ이터はすぐに理解してくれ、フレンチ・ドレッシングというものはないけれど、サウザンドアイランド・ドレッシングならあると言った。そこで私は、サラダにサウザンドアイランド・ドレッシングなるものをかけてもらうことにした……。

たぶん、このとき、私は初めて英語というもの、外国語というものに出会ったのだと思う。たったひとつの言葉、たったひとつの言い回しによって世界が開けるものだということを腹の底から理解することになったからだ。



英語教育相談室

2018
| No.04 | C O N T E N T S

旅のことば
世界が開ける
沢木耕太郎

特集

02 『We Can!』どう使う？

『We Can!』の特色は？
加賀田哲也

事例レポート

京都市立九条塔南小学校
長野県小諸市立東小学校
セミナーレポート
株式会社イーオン

連載

12 **こう使う！
COLUMBUS 21** [第4回]
山梨県都留市立都留第一中学校
三枝幸一

16 **小中をつなぐポイント** [第4回]
どう学ぶ(How to learn)でつなぐ
太田 洋

18 **今日から使える！
Classroom English** [第3回]
活動の指示の表現①
菅井幸子

20 **小学校英語 お悩み相談室** [第4回]
ファーストネームでよぶことに違和感があります。
ローマ字と英語の違いをどう指導したらよいですか。
小泉 仁

22 **子どものための
BOOK GUIDE** [第4回]
SKELETON HICCUPS
金原瑞人



『We Can!』 どう使う

【特集】



本年度より、小学校外国語活動・外国語科の移行期間が始まりました。授業のつくり方に試行錯誤されている方も多いのではないのでしょうか。本特集では、2020年度の教科化に向け、文部科学省が作成・配布した高学年用新補助教材『We Can!』の特徴や活用方法について取り上げます。加賀田哲也先生による解説と、実際の授業事例や関連セミナーをもとに、『We Can!』を使ってどのように授業を進めていけばよいかを考えていきます。

撮影：伊東俊介(p2, 4-7)

『We Can!』の特色は？

2020年度までの2年間、全国の小学校で使用される『We Can!』。その具体的な特色や使い方について、加賀田哲也先生にお聞きしました。

『We Can!』は、その名のとおり「英語を使ってこのようなことができるようになってもらいたい!」という期待を込めて作成されたものです。児童用冊子に加え、指導編、指導用デジタル教材、ワークシートなどがあり、これらを組み合わせて効果的に学べるように工夫されています。

ここでは、「聞く」「話す」に、本格的に指導が始まった「読む」「書く」を加えた四つの観点から特色や使い方を紹介します。



加賀田 哲也

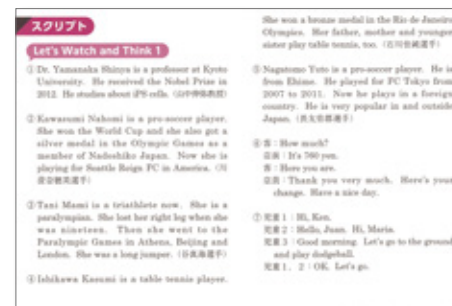
かがた・てつや
大阪教育大学教育学部
英語教育講座教授

米国シアトルの州立ワシントン大学(理論言語学)および大学院(教育心理学)を修了後、大阪大学大学院人間科学研究科博士課程後期修了。博士(人間科学)。大学で教員養成に携わる他、小学校、中学校、高等学校などで英語授業改善のための指導や教員研修に当たっている。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

聞く まとまりのある英語を聞く。 キーワードは「推測する力」

『We Can!』の指導編を見ると、「Let's Watch and Think」の英文スクリプト(※1)の長さに驚かれる先生方が少なくありません。確かに、かなりの分量を聞くユニットもありますが、児童には全ての情報を理解させる必要はありません。映像を見ながら、既習の知識をもとに新出の単語や表現の意味を推測し、会話や話の概要を理解させます。話の内容が「何となく」分かったというイメージでよいと思います。

英語教育では、「曖昧さ」が残る状態を受け入れ、それに耐えさせることも大切です。すぐに日本語に訳すことは避けるべきでしょう。そのためにも、推測させるためのヒントとなる足場をしっかりと掛けてあげることが重要です。また、児童一人の力だけで理解することが難しい場合は、ペアやグループで考えさせてもよいでしょう。



※1 『We Can!』指導編p6-7
Unit 1「Let's Watch and Think 1」の英文スクリプト

では、まとまりのある英文を聞く指導はどのように行えばよいのでしょうか。そのためには、まずイラストを見て単語や表現の確認をしながら、これから聞く内容を予測させることが大切です。つまり、聞くための下ごしらえをするのです。次に、実際に聞く段階では、1回目は、全体のイメージをつかませます。その際、内容に関する質問をあらかじめ一〜二つ用意してお

くといいでしょう。2回目は、細かな情報を理解させていきます。大事なところでは、その直前で止めたり、何度も聞かせたり、先生の声でゆっくり抑揚をつけながら読んであげたりして、

話す 「やり取り」する場面が増加。 キーワードは「Small Talk」と「会話の継続」

新学習指導要領では、「話すこと」が「やり取り」と「発表」に分けられることになりました。この「やり取り」を充実させる活動の一つとして、Small Talkが挙げられます。これは、あるテーマについてのまとまった話を先生から聞いたり、ペアで伝え合ったりすることです。

文部科学省が公開している『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』では、Small Talkのねらいとして、①既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図る、②対話を続けるための基本的な表現の定着を図るの2点が挙げられています。5年生では、指導者の話を聞いたうえで、その話に関わるやり取りを行います。6年生では、まず指導者と児童がやり取りをし、次に児童どうしが相手意識をもってやり取りを行います。

ここで大切なのは、児童が聞きたい、伝えたいと思うトピックを選ぶことです。教師が児童に表情豊かに語りかけ、実物、写真、ポスターなどの視覚的な情報やジェスチャーなどの動作を駆使しながら、概要を理解させます。

また、対話を継続するための指導も行う必要があります。上述の『研修ガイドブック』には、対話を継続するための工夫として「対話の開始」「繰り返し」「一言感想」「確かめ」「さらに質問」「対話の終了」に関する表現例が挙げられていますが、この他にも、児童の実態に合わせ

児童の注意を引きつけます。聞かせた後は、スクリプトの中の単語や表現のいくつかを使って、簡単なやり取りをしてもよいでしょう。

て、“Sorry, but I don’t understand.” “Please speak more slowly.” “What’s ~ in English?” “How about you?”などの表現も積極的に使用させましょう。

やり取りでは、相手意識をもち積極的に関わろうとする姿勢、対話が途絶えてもあきらめず、何とかして継続していこうとする姿勢を育みたいものです。また、自分の思いが通じたときの「喜び」と、伝わらなかったときの「もどかしさ」も体験してほしいと思います。もしうまく伝わらなかったとしても、どうしたらうまく伝わるかを考えさせる機会につなげたいものです。



読む 推測しながら読む。 キーワードは「アルファベットの音読み」

読み書きの指導では、どうしても個人差が顕著になり、児童間の「得意—苦手」の二極化が懸念されます。児童に過度の負担をかけることなく、ゆっくり丁寧に指導しましょう。

中学年でアルファベットの「文字読み」に慣れ親しむことを踏まえ、『We Can!』では大文字・小文字を認識したり、アルファベットの「音読み」を学んだりします。アルファベットのa～zに加え、ch, sh, th, whなどの読み方にも触れます。この指導では、巻末にあるAlphabet, Animals, Countries, Foodsなどの各種Jingle及びワークシートのSounds and Lettersを活用するとよいでしょう。そして、写真やイラストなどの情報を手掛かりにして、音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測して読んでい

きます。語頭音を頼りに単語や文が「読めた!」という体験は、大きな自信と意欲につながるはずです。

『We Can!』ではUnitの最後にSTORY TIMEのコーナーがあり、音声を聞き、イラストを手掛かりに内容を推測したり、音と文字を結び付けたり、単語や文、語順などの認識を深めたりします。6年生用『We Can!②』では、ストーリー中に韻を踏む単語が意図的に並べられており、音声と文字の関係に気づいたり、音が続く楽しさを味わえたりするように工夫されています。

読みの指導では、音声と一緒に英文を指で追いつきながら聞いたり言ったり、韻を踏むところの音を言ったりするなど、児童の実態に合った指示を与えながら取り組ませることが大切です。

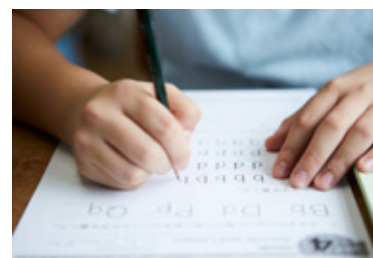
書く 書き写す、例文を参考に書く。 キーワードは「自己表現」

新学習指導要領では、いよいよ書く活動が始まります。アルファベットの大文字と小文字を書くことから始め、これまで音声で十分に慣れ親しんだ単語や表現を書き写したり、例文を参考にしながら、自分のことや身近なことについて、自分が表現したい内容のものに置き替えて書いたりしていきます。また日英の語順の違い

や書くときのきまりについても、基本的な事柄(終止符や疑問符、コンマなどの記号、単語間のスペース、文頭は大文字など)を学び

ます。

ここで留意すべきは、小学校では「書く活動＝和文英訳」ではないということです。書く活動は、あくまでも児童の本当の気持ちや考えを表現させるための「自己表現活動」につながなければなりません。ですので、自己表現の際には、必要な単語をリストにしたものを用意し、児童にその中から選ばせ、書き写させるようにします。中学校のように、単語や表現を暗記させることはふさわしくありません。また、ペنマンシップの指導に偏ってもいけません。文章を書き終えた後には、みんなの前で発表させるのもよいでしょう。

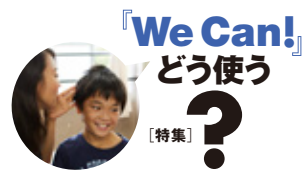


それでは、実際に学校の事例を見てみましょう



事例レポート

『We Can!』を活用し、画期的な英語の授業づくりを進めている学校取材しました。どのように『We Can!』を活用しているのか、効率的に指導を行うためのポイントなどをお聞きしました。



事例1 京都市立

くじょうとうなん

九条塔南小学校

子どもの理解度に寄り添い、「選択と集中」で授業をつくる

指導書の計画どおりでなくてもOK

パチン、パチン。指を鳴らす小気味よい音が教室に響く。その音に合わせ、子どもたちが元気にチャンツに取り組んでいた。“Get up, get up, what time do you get up?”――

ここは京都市立九条塔南小学校5年生の教室。この日に扱う単元は『We Can!①』のUnit 4だ。デジタル教材は使わず、英語担当の山川拓先生やまかわたくが指を鳴らし、その音でリズムをとる。教室のテレビ画面に手作りのスライドショーを流しながら、オリジナルのチャンツを披露した。

『We Can!』のデジタル教材のチャンツは、子どもにとっては難しかったり、速かったりす



山川先生が手作りのチャンツに取り組む、笑顔を見せる子どもたち。

ることもある。そこで、より単純なチャンツを作りました」と山川先生。京都市では、市独自の取り組みとして、4年生で計10時間、外国語活動に取り組んできた。しかし、『We Can!』は基本的に3～4年生で外国語活動を計70時間経験してきた児童を想定しているため、「10時間しか外国語活動を経験してきていない今年度の5年生にとっては、レベルが高い部分もある」と言う。

取材したのは、全8時間中の第6時。この日初めて、新しい言語材料であるalwaysやusuallyといった頻度を表す副詞が授業に登場した。『We Can!』指導編の「指導の流れ」では、頻度の副詞は第2～5時で扱う計画を示しているため、やや遅い展開ということになる。

「今年度の5年生に指導編どおりの計画で授業を進めたら難しく感じてしまう子どももいるでしょう」と山川先生。Unit 4の内容理解には、1～60までの数字や時刻、日課などの表現を知っていることが前提となる。しかし、今年度の5年生は『We Can!』で初めて本格的に英語に触れるため、そういった前提となる表現から慣れ親しんでおく必要があるという。

そこで、山川先生は第1～5時を使い、数字や時刻、日課などの表現の練習に充てた。1～60

の数字が書かれた表をスライドに映して音読したり、日課を表す表現を絵カードで示しながら読み上げたりと、Unitの内容に入る前の準備にたっぷり時間をかけたのだ。

重要部分は繰り返す一方、省く部分も

その結果、授業時間の制約上、Unitの中で扱えない部分も出てくる。そこで、事前に『We Can!』の内容を隅々まで把握しておき、授業で重点的に扱う項目と省略する項目を選ぶのだ。山川先生の場合、そのUnitで子どもに学んでほしい目標を立ててから、『We Can!』の中で使用する部分を選び、授業を独自にデザインしていく。本時でも、p28(※1)の「Let's Play 1」のポインティング・ゲームは省略。順番を変えて扱ったり、『Hi, friends!』を活用したりもする。

デジタル教材についても同様だ。山川先生は「事前に視聴しておいて、どこまで使うか、どこで止めるかを検討します。場合によっては、別の活動に置き換えることもあります。材料があるから使わないといけなないと思いがちですが、教

※1 『We Can!①』Unit 4(p28-29)



「Let's Play 1」のポインティング・ゲームは省略!

「Let's Listen 1」では、一人の音声だけを何度も繰り返して聞く!

材を使うのに必死になりすぎると、子どもを丁寧に見取ることが難しくなってしまいます」と語る。

本時でp29(※1)の「Let's Listen 1」で聞き取りを行う場面でも、使用したのは音源の半分のみ。しかし、その部分は何度も繰り返して聞かせ、「usuallyの部分だけ集中して聞いてみよう」と強調した。『We Can!』活用には、メリハリが重要なのだと実感した授業だった。

ここがポイント!

手作り教材で内容をアレンジ

『We Can!』の内容をより理解しやすくするために、山川先生がよく活用するのがオリジナルの手作り教材だ。

本時でも、自作のチャンツを披露したほか、頻度を表す四つの副詞を扱うにあたっては、横軸に曜日、縦軸に“get the newspaper”“clean my room”などの日課が書かれたオリジナルの表を用意。授業では、山川先生が自身の生活にもとづいて表に丸をつけていき、全ての曜日に丸がついた日課をalways、一つも丸がつかない日課をneverなどと紹介し、

単語の意味を推測させた。子どもたちは、alwaysについては「全部の日」、neverについては「ほとんどしない」と次々に声を上げていた。

「意味を口で教えるのは簡単ですが、大事なのは子どもたち自身が単語のイメージを感覚で捉えること」と山川先生。考えさせることで定着率もアップするのだ。



自作の表を掲示し、単語の意味を子どもに推測させる山川先生。



事例2 長野県小諸市立
ひがし
東小学校
興味や個性に配慮しながら、
自然なコミュニケーション場面をつくる



やり取りを「自分ごと化」させる

“Let's start English!”

始業ベルが鳴ると、6年生の子どもたちは一斉に拳を頭上高くに突き出して声をそろえた。

教室の前に立つのはALTのLee Watkins先生と、英語専科の折橋晃美先生。授業は二人のチーム・ティーチングで進められる。

この日は月曜日。Lee先生が折橋先生に、“How was your weekend?”と問いかける。そのまま二人は自然に子どもたちの前で月曜の朝ならではの会話を繰り広げていくが、実はこれ、“How was ~?”の復習につなげるSmall Talkだ。子どもたちもペアで、“How was your weekend?” “It was ~.” “I went to ~.”などとやり取りをして



Small Talkを見せる(左から)折橋先生とALTのLee先生。

いく。

「教材のテーマに合わせた内容、書かれている指示とおりの練習をするのではなく、必然性と相手意識を心がけ、自然なコミュニケーションができる場面をつくるのが大切です」。Lee先生と折橋先生のこだわりはここにある。

続くチャンツの活動も同様だ。月の名前を順

ここが
ポイント!

身近な題材で興味を引きつける

チャンツの活動時、Lee先生が突然、授業をサポートしていた担任の先生に“When is your birthday?”と投げかけた。とっさのことに戸惑うものの、きちんと回答する先生の姿に子どもたちは盛り上がる。一見無茶振りのようだが、担任の先生にも授業に参加してもらうことで、子どもたちにも積極的に英語を話してみようという姿勢が生まれる。事実、他



教科の授業中や休み時間に、担任の先生が子どもたちと簡単な英会話をするといった例も出てきたようだ。

一方、英語専科の折橋先生はいわば自らをネタにして子どもの興味を引きつけることも。Unit 7の導入では、自身の小学生時代の写真を見せ、そのボーイッシュな姿で教室を沸かせた。

ときに担任を巻き込み、ときに自らをさらけ出して興味を引くことで、英語でコミュニケーションをとる雰囲気が醸成されていくのだ。

折橋先生が小学生時代の写真を見せると、子どもたちは興味津々。

※1 『We Can! ②』Unit 7 (p50-51)



見開きページのイラストを使い、「指差しゲーム」を実施。ペアで対戦形式にすることで子どもたちの意欲もアップ!

番に読み上げていくチャンツの後に、“When is your birthday?” “My birthday is ~.”という会話練習を行わせることで、また一つ、自然なコミュニケーションの場面をつくった。

ここでいよいよ教材に入る。この日は、『We Can! ②』のUnit 7「My Best Memory」(※1)の最初の授業だが、まずは教材を使わず、教師の話に集中させる。折橋先生が自分の小学生時代の「ベストメモリー」として、地域のミニバスケットボールクラブで全国大会に行った思い出を話すと、Lee先生が“I'll talk about my best memory in England.”と展開。スクリーンに出身国であるイギリスの小学校の写真を映し、“We have drama festival in England. Do you have drama festival in Higashi Shogakko?”などと日英の違いに注目させながら、さまざまな学校行事に話を広げていく。“We don't have graduation ceremony. Good-bye, and that's the end.”(卒業式はありません。さよならしてそれだけ)とLee先生が言うと、ざわめきが起こった。

「教材の音声やDVDに頼るのではなく、子どもの興味があることや身近な話題に置き換えることで、やり取りを『自分ごと化』させます。

隣どうしてペアになり、「指差しゲーム」で盛り上がる子どもたち。

『We Can!』“を”教えるのではなく、『We Can!』をきっかけにコミュニケーションの場面をつくることで、子どもたちは英語を聞く・話すことにアクティブになれるのです」(折橋先生)。

個性に合わせた多様なタスク設定

ここからゲームが始まる。学校行事名を読み上げ、ペアのどちらが先にその行事のイラストを見つけられるか競う「指差しゲーム」と、先生が次々と見せていく絵カードの行事名を全員で声をそろえて答えていくが、うまく言えないものがあると絵カードを最初まで戻して繰り返す「巻き戻しゲーム」。どちらもシンプルなものが、Lee先生の巧みな演出もあり、回を重ねるごとに教室は盛り上がりを見せる。そしてこの日学んだ全てを使って挑む最終タスク、“When is ~ (学校行事名)?” “It's in ~ (月名).”のやり取りにつなげ、総まとめを行なった。

「今日はゲームでしたが、『ポスターを作ろう』『ミニブックを作ろう』といったクリエイティブ・タスクを取り入れることもあります」とLee先生。ゲームは、競争心のある子どもを夢中にさせる一方で、物静かに学ぶのが好きな子どもは楽しめないかもしれない。子どもたちが個性を生き、それぞれのスタイルで頑張れるように、さまざまなタイプのタスクを設定するのだと言う。

ALTと足並みをそろえ、子どもの興味や個性に配慮しながら、とにかく楽しませる。東小で英語嫌いが生まれない理由はここにある。



『We Can!』を使ったクラスルーム・イングリッシュ

「小学校教員向け 指導力・英語力向上セミナー」

主催：株式会社イーオン 学校教育課

日時：2018年8月18日（土） 場所：都久志会館（福岡市）

英会話教室を運営する株式会社イーオンは、全国各地で小学校教員を対象としたセミナーを開催しています。講師を務めるのは、小誌連載「今日から使える! Classroom English」の執筆を担当している菅井幸子先生。今年8月18日に福岡市で開かれた『We Can!』を活用したクラスルーム・イングリッシュのセミナーを取材しました。

セミナーで講師を務めた
菅井幸子先生。

クラスルーム・イングリッシュと 英会話は別なもの

「皆さん、クラスルーム・イングリッシュって難しいと思いますか?」。冒頭、菅井先生は会場に集まったさまざまな年代の先生方に問いかけた。うんうんとうなずく参加者たち。「クラスルーム・イングリッシュとは、授業を円滑に進めるために調整した英語。英会話とは別のものなんです」と菅井先生。つまり、ポイントさえ押さえれば、英語初心者でも使いこなせるということ。「3～5語程度の英文にまとめると、子どもにとっても、先生にとっても覚えやすいでしょう」と補足すると、参加者たちは熱心にメモを取っていた。

「行動の整理」から始めよう

『We Can!』を使った実践練習に入る前に、菅井先生が、授業でスムーズに活動を進める方法を提案した。それは、指示英語ありきではなく、まず子どもたちにどんな活動をさせたいのかを整理するというやり方。「リスニングやスピーキングなど多様な活動がありますが、この活動は何のためにあるのかということを皆さん自身が理解しておけば、指示英語は後からついてき



※1 『We Can!①』Unit 7の冒頭(p50-51)

ます。ねらいを明確にして準備すると、指示英語ありきではなくなるのです」と力を込めた。

最初に行うのは子どもの活動内容の確認。『We Can!』指導編の単元目標や言語材料、活動のねらい、内容、指導上の留意点などを授業前にチェックしておく。菅井先生は「デジタル音声を聞く場合、授業で子どもと一緒にいきなり聞くのではなく、事前に聞いておきましょう。そのほうが皆さん自身も安心できます。指導編には音声ページへアクセスできるQRコードもついているので活用しましょう」と説明した。

続いて、次の四つの手順に沿って、活動に必要な先生の行動を整理していく。

- ① **セットアップ** (活動に必要な準備)
- ② **チェック** (活動に必要な情報の確認)
- ③ **タスク** (活動内容の説明やデモンストレーション)
- ④ **フォローアップ・コメント** (活動後の答え合わせや意見のシェア・「褒める」などの声かけ)

この手順を徹底することで、先生も子どもも授業の流れに慣れることができるのだ。

四つの手順に沿った クラスルーム・イングリッシュを

実践練習で扱ったのは、『We Can!①』のUnit 7冒頭の見開きページ(※1)。デジタル教材を視聴しながら、紙面上にあるさまざまなものを指で押さえていく活動を行う。ここで菅井先生は、このUnitをスムーズに進めていくためのコツを伝えた。「ここに出てくるものは、これまでに子どもたちが聞いたり、言ったりしてきた身近なものです。言い方を忘れていてもあります。デジタル教材を視聴する前に絵カードや見開きページを拡大したものを見せ、覚えているかどうかをチェックしましょう。そうすればクラス全員が安心してこれからの活動に

入ることができます」。

その後、参加者たちは2,3人のグループを作り、①～④の流れに沿ってこの活動に必要な先生の行動を話し合った。その行動内容を日本語でワークシートに書き出していき、それをクラスルーム・イングリッシュとして英語に直していく。菅井先生が「このパートでは何ページを開かせるとか、単語チェックのときにどんな質問ができるかとか、先生が授業でどんな行動をとるかを具体的にイメージしましょう。行動内容を意識すると、クラスルーム・イングリッシュは後からついてきます」と話した。

次はペアワーク。先生役と子ども役に分かれ、書き出したクラスルーム・イングリッシュを声に出していく。先生役はプリントを指さしたり、拍手したりと、ジェスチャーを交えて話していた。「子ども役の方は、授業で実際に子どもたちが言いそうなことを考えて質問してみましょう」と菅井先生。先生自身の行動を整理し、子どもたちの反応を前もって予測しておくことで、よりスムーズに授業を進められるのだ。



参加者どうしの会話練習にアドバイスをする菅井先生。
セミナーは終始、和やかな雰囲気が進められた。

参加者の声

**『We Can!』
どう使う?**
[特集]

これまでは限られたクラスルーム・イングリッシュばかり使っていましたが、今日のセミナーで言葉の引き出しが増えてよかったです。
(40代・女性教諭)

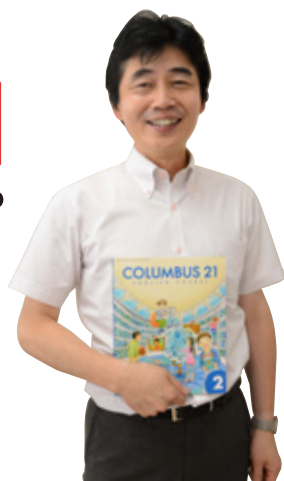
いきなり全て英語で授業を行うのは難しいかもしれませんが、少しずつなら英語のやり取りを増やしていけると思いました。
(40代・男性教諭)

こう使う！

COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE 4

中学校英語教科書『COLUMBUS 21』は、
英語学習への意欲を高める工夫を随所に設けています。
実際にその工夫を生かした実践をされている学校を取材し、
先生のインタビュー（前半）と
授業リポート（後半）の2部構成でご紹介します。



都留市立都留第一中学校



山梨県都留市の中央部にある公立中学校。
1947年、前身となる谷村中学校が創立。
1965年、都留第一中学校と校名を改称し、
昨年創立70年を迎えた伝統校である。
各学年2～3クラス、213人の生徒が学ぶ。
市内には、日本で唯一時速500kmで走行する超電導リニアモーターカーが
間近で見られる施設「山梨県立リニア見学センター」がある。

三枝幸一先生

都留市立都留第一中学校 英語科教諭

大学では英語学を専攻。大学卒業後、山梨県内の公立校に勤務し、2010年より現職。
2011年より山梨県中学校英語教育研究会事務局長。英語学習を通じ、生徒に世界とのつながりを感じ取れるようになってもらうことを目指している。

扉を活用して「スキーマ」を活性化

『COLUMBUS 21』では、各Unitの冒頭に扉のページが用意されています。本校では、Unitの本文に入る前に、**扉の写真や設問をフル活用して、最初に生徒たちの「スキーマ」を活性化させます。**スキーマとは、ある対象を理解しようとするときに働くイメージの枠組み、背景知識のことをいいます。

例えば、2年生教科書のUnit 4の扉(※1)では、“What do you know about New York?”という設問が載っています。Unitの本文に入る前に、「ニューヨーク」という言葉から思いつくことを考えさせたり、周囲の友達と話し合ったりさせることで、生徒たちの想像力を刺激し、スキーマを形成させます(p14-15の授業も参照)。それが、

生徒が主体的にUnitの学習に入っていくための素地になります。

ニューヨークは、ただ華やかな場所ということではなく、「9.11同時多発テロ」のような陰惨な出来事もあった場所。そういった光と影の部分に思いをはせることが、次のUnit 5でアヤが訪れる沖縄のイメージ形成にもつながっていくわけです。教科書の題材を自分のものにしていくプロセスの中で、多様な英語表現に出会うことで、生徒の思考が広がっていきます。

大まかな内容をつかむ

『COLUMBUS 21』の扉は、まずUnitの本文を生徒に通して聞かせることで、**全体の内容を大まかにつかめるようになっています。**最初に大まかな内容を把握してから、細かい部分を理

解していくという流れですね。私が授業で扉を扱うときは、教科書のUnit本文のストーリーを実写版で映像化した「COLUMBUS 21 指導用DVD」を何回も見せるようにしています。やはり最初から音声だけだと理解するのが難しい生徒もいるので、場面をイメージできる映像教材は必要だと思っています。

学習前の内容を視聴するので、未知の単語や文法事項が出てきます。映像内の場面や状況をヒントに、新しい語句の意味を推測しながら概要を捉えていきます。分からない部分があると、立ち止まって調べたくなってしまいますが、英語学習においては、多少の分からない部分は必要以上に気にせず、分かる部分から想像を広げていくという姿勢が重要です。1文ずつ正確に和訳していくことも大切ですが、**生徒には「曖昧さ」に耐えられたり、許せたりする力を養ってほしい**と考えています。分からない部分があってもへこたれず、かといって固執しすぎることもなく、適度な疑問をもちつつ考えるようにすることで、本当の英語力が身についていくと考

えます。

英語がほかの教科と違うのは、必ずしも、一つ一つの要素を完全に理解してから次のステップへ進むという積み上げ式の「ボトムアップ」の学習方法が適切とは限らないという点です。むしろ、良質な英語をたくさんインプットさせ、すぐには分からなくてもいいから生徒たちに繰り返し触れさせることが重要です。そういった観点から、**Unitの内容に入る前に本文を通して聞かせることは、大きな意味があります。**

できないことに気づかせる

また、扉には、そのUnitで何ができるようになるかという学習到達目標が「CAN-DO」形式で載っています。新しいUnitに入るときは、目標を明確化させるために、生徒たちにこの部分を必ず音読させています。

もう一つ心がけているのは、**あえてUnitの導入部分で生徒に難題を出す**ことです。「CAN-DO」ならぬ「CANNOT-DO」ですね。全て教えてからやらせるのではなく、導入部分でやらせてみる。「これを英語で表現するとどうなる？」と言うと生徒はとまどいますが、そのとまどいが重要です。**何ができないのかをしっかりと自覚させ、目標とのギャップを感じさせます。**そして、「このUnitが終わった後にこういう表現ができるようになりたいね」と伝え、本文に入っていきます。それにより、生徒は見通しをもって学習に取り組むことができます。

Unitが終わった後も再び扉に戻り、目標のチェック欄にA～Dの自己評価を書き込ませています。**学習の振り返りにも扉を活用することが**できます。



※1『COLUMBUS 21』2 p33

Unit 4の扉。扱う題材の紹介をはじめ、学習到達目標をCAN-DO形式で示してある。

三枝先生の授業は次のページで紹介！

こう使う！
COLUMBUS 21
ENGLISH COURSE

三枝先生の授業を レポート！

2年3組（生徒数：26名）

学習内容：Unit 4 導入（第1時）

本時の目標：Unit 4のストーリーの概要把握



黒板には始業前から“Today's Goals”と書かれていた。チャイムが鳴り、三枝先生がそれを手で示しながら“Let's check it up, everybody.”と声を張り上げた。生徒たちは黒板を見ながら、今日の目標を大声で読み上げる。

- ① can understand the outline of the new story.
- ② knowing what kinds of things we are going to learn in Unit 4.

三枝先生が「これどういうこと？」と問いかけると、教室中から「新しいストーリーの概要を理解する！」などと元気な声が上がった。

●Unit 4 Taku Gets Lost

本文の内容：
タクがティナに誘われ、夏休みにニューヨークを訪ねる場面。セントラルパークで二人は待ち合わせをするが、あまりの広さにタクは迷ってしまい……。

今日の
授業はココ！

| 時 | 内容 |
|-------|---|
| 第1時 | 導入（扉を活用し、ストーリーの概要把握、単元の学習目標の確認）★ |
| 第2～5時 | ストーリー内容の理解、Oral Introduction (Interaction)、音声変化聞き取り、Focus on Form、多様な音読練習、「Try It!」などのインプット・インテイク活動 |
| 第6時 | アウトプット活動（「You Can Do It!」私の町～自分の町の名所を紹介しよう） |

扉を活用して 題材へのイメージを膨らませる

冒頭の5分間はUnit 3の復習として、夏休みの予定をテーマにペアトークを実施。それが終わると、三枝先生が“What do you know about New York?”と切り出した。本時の内容であるUnit 4の扉に載っている設問だ。生徒は隣の席どうしで、ニューヨークについて知っていることを話し合う。自由の女神、ハンバーガー……。多様な単語が飛び交う中、“Have you ever been to New York?”「ニューヨーク行ったことある？」と三枝先生が問いかけた。続いて“I have been to New York. I took some pictures.”と、実際に先生が撮ったニューヨークに関する写真を紹介。自由の女神、タイムズスクエア、グラウンド・ゼロなどを紹介する中、時折“It's me!”と自分が写っている写真を見せると、「その写真欲しい！」と笑いが起こっていた。

映像資料を流し 本文の概要を把握

そして、Unit 4の本文にも出てくるセントラルパークの写真を見せ、“It's a very big park.”と説明。ここで、タクとティナがセントラルパークで待ち合わせをしている教科書の絵を見せ、“They have a problem. Taku gets lost.”と本文の内容に触れた。「さあ、タクはこの後どうしたのでしょうか？」と生徒たちの興味を高めて、“OK, everybody. Let's watch video.”と、Unit 4のストーリーの実写映像をテレビに映した。約3分の映像を一度も止めることなく流す。

映像を視聴した後は、「指さし読み」で大まかな内容をさらにつかんでいく。三枝先生がUnit 4の本文を音読するのに合わせて、生徒たちは教科書の文章を指でなぞりながら黙読。続いて、本文の内容に関する設問が載ったワークシートが配られた。四つの設問が載っているが、生徒たちの鉛筆はあまり動かない様子。そこで、三枝先生は「よし、じゃあ、もう1回映像を見てみよう」と再び映像を流した。

その後、答え合わせをするが、この時点ではまだ、内容の理解度にばらつきがあるようだ。ここで、三枝先生が新たなプリントを配布した。Unit 4の本文が載っており、“there are”の部分が



三枝先生の音読に合わせて、「指さし読み」で本文全体の内容をつかんでいく。



グループになり、山梨の名所を英語で表現してみる生徒たち。単語は出るが、文の組み立てに苦戦しているよう。

赤色、“have to”の部分が青色で強調されている。Unit 4で学ぶ重要表現だ。三枝先生は「色分け部分に注目して聞きましょう」と話したうえで、再び音読。生徒たちは真剣な表情で「指さし読み」に取り組んだ。

Unit最後のページへ飛び、 到達目標を明確に

続いて、Unit 4最後のページにある「You Can Do It!」に飛び、セントラルパークについて紹介するブログの英文を三枝先生が音読。その後、「皆さん、山梨にはどんな名所がありますか」と問いかけた。「富士山」「富士五湖」などの声上がる。「では、そういった山梨の名所を英語で紹介してみましょう」と三枝先生。日本語が飛び交い、すかさず“In English!”とくぎをさした。生徒たちはグループに分かれて話し合う。“Mt. Fuji”などの単語は出るが、文の組み立てにかなり苦戦しているようだ。

最後に再び、三枝先生がブログの英文を紹介した。“There is a great park in New York City. It's Central Park.”「このような感じで山梨のことを説明できるようになるといいですね」と話し、生徒たち全員で扉に載っている三つの目標を音読。単元のゴールを確かめた。

ここで授業は終了。活動が盛りだくさんにもかかわらず、あっという間の50分だった。

小中をつなぐ ポイント

小中連携は、英語教育の大きな課題の一つです。この連載では6回に分け、小学校と中学校の学びをどうつないだらよいか、そのヒントを述べていきたいと思います。今回は、中学校英語教科書『COLUMBUS 21』を使ったつなぎ方について、ご紹介します。

小中連携のポイント

② どう学ぶ(How to learn)でつなぐ

POINT 1 「推測して学ぶ」
(本文の話題と登場人物を生かす)

POINT 2 「自分に近づけて学ぶ」
(How about you?と問いかける)

太田 洋
おおた ひろし
東京家政大学教授
東京都生まれ。2002年東京学芸大学大学院修了。
東京都の中学校、東京学芸大学附属世田谷中学校教諭、
駒沢女子大学教授を経て現職。
中学校英語教科書
『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の
編集委員を務める。

今回は、『We Can!』を題材に「①何を学ぶ(What to learn)」について考えました。

第4回目の今回は、「②どう学ぶ(How to learn)」というポイントについて、「推測する」「自分に近づける」という二つの観点から、小学校での学びを中学校につなぐ授業づくりについて解説します。

1. 「推測する」という学び方でつなぐ

小学校では、先生が文法や語彙の説明をするのではなく、場面を与え、活動することを通して意味を推測しながら学びます。常に新しいことに会える言葉の学びにおいては、「推測」はとても大切です。中学校でも「推測」する学び方を継続していきたいですね。ここでは、そのための方法を二つ紹介します。

一つは、生徒の既存知識を使って、連想させることです。例えば、『COLUMBUS 21』(光村図書)1年Unit 10「Happy New Year」(※1)では、タイトルから連想する語句を挙げさせます。このUnitはNew Year's Eveのことも扱ってい



※1『COLUMBUS 21』, 1年Unit 10 p121

ますから、大みそかからお正月の三が日で考えさせるといいでしょう。生徒たちは、そば、初詣、お年玉、などを挙げられると思われます。生徒が日本語で発言しても、それを先生が可能な範囲で、“Oh, you visited a shrine or temple.”などと英語で返してあげるといいでしょう。生徒に連想させた後で、「では、本文でその話題は取り上げられているかな。Let's listen!」と指示し、Unitの本文全体を聞かせます。

もう一つは、『COLUMBUS 21』の特長である登場人物とストーリーを活用することです。例えばUnit 10では、「TinaやAyaは、年末年始に何をしたかな」と問いかけながら推測させます。これまでの教科書のストーリーに触れてきたので、生徒は登場人物についての知識をもっています。それを生かし、登場人物の行動などを推測させるのです。そして、その推測が正しかったかどうかを確認するために、Unitの本文全体を聞かせます。

2. 「自分に近づける」という学び方でつなぐ —How about you?の学び方

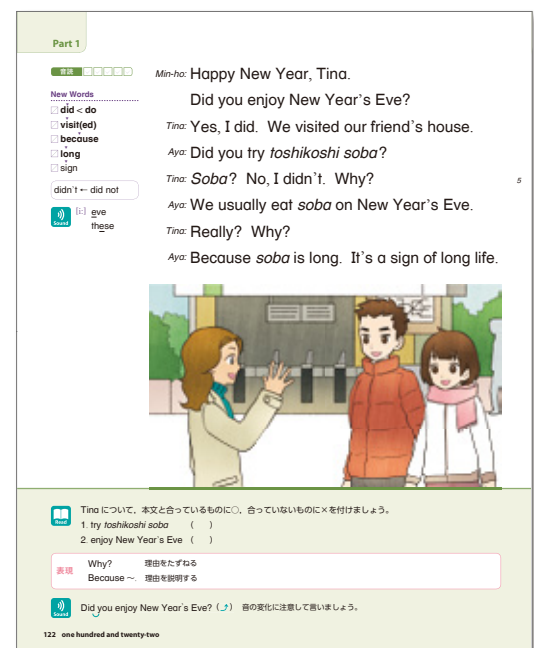
小学校での授業づくりは、児童の視点から出発します。つまり、「これは児童が聞きたい、言いたい、伝えたいと思うかどうか」という視点です。この視点での授業づくりでは、先生は「みんなはどう？」と考えることを児童自身に促します。英語で言うと、“How about you?”ですね。学んだことを自分に近づける学び方の利点は、学習の意味がわかること(学んだことは使えるとわかること)や、記憶に残りやすいことなどです。中学校でも、折に触れて“How about you?”と問いかけ、学びを生徒に近づけるよう常に心がけたいですね。

そのための方法を、二つ紹介します。一つは

本文の内容・話題について、もう一つは「Try It!」などのlisteningの内容・話題で、意識的に“How about you?”と問うことです。

例えば前に挙げたUnit 10では、本文(※2)を扱いながら、“Tina didn't eat *soba* on New Year's Eve. How about you?”と尋ねることができますね。

また、Unit 10の「Try It!」【1】(※3)には「Tinaが冬休みにしたことや食べたものについてのボイスメッセージを聞き取る」というリスニングタスクが載っています。ここでも、聞き取った後で、“How about you?”と尋ねることができます。



※2『COLUMBUS 21』, 1年Unit 10 p122



※3『COLUMBUS 21』, 1年Unit 10 p125

次号では、「③CAN-DOでつなぐ」についてご紹介します。

今日から使える!

Classroom English

Lesson 3

活動の指示の表現①

外国語科の先行実施が始まって今年度も半分以上が過ぎましたが、英語の授業は順調でしょうか。このコーナーで紹介した表現もたくさん使っていただいていたらうれしいです。

クラスルーム・イングリッシュは日常会話とは違い、授業を円滑に進めるために調整した英語で、「短く、簡潔に、分かりやすく」が基本です。活動指示も、動詞で始まる3~5語程度の命令文で十分ですので、指示を出す先生方にとって覚えやすいだけでなく、英語を初めて習う児童も理解しやすいでしょう。

活動を進めるための指示には、do, make, look, watchといった基本動詞を多く使います。これから英語を学び直したい方は、授業を英語で進めるために、まずこうした基本動詞の復習から始めることをおすすめします。

今回は、授業でペアやグループになって活動をするときに役立つ表現を紹介します。少しずつ、確実に使える表現を増やしていきましょう。

Make pairs.

ペアになりましょう。

ペア活動をするときに、最初に使える表現です。「～を作る」という意味の動詞makeは、「輪になる(Make a circle.)」や「列になる(Make a line.)」などにも使えます。日本語にもカタカナでペアという言葉がありますが、英語では、pairは数えられる名詞です。a pair(一つのペア)またはpairs(複数のペア)となるので、授業でのペア作りの際は、必ず複数を表す「s」をつけましょう。文頭に“Please”を付けて、“Please make pairs.”と言うこともできます。

Make groups of three.

3人組を作りましょう。

3人以上のグループにするときにもmakeが使えます。“a group of 数字”の数字の部分に、グループ内の人数を入れます。「メイク グループス オブ スリー」のように、母音で区切った読み方をせずに、Makeの最後のkの音と、groupsの最初のgの音は重ねるように、そしてgroupsの最後のsの音と、次のofのoの音を重ねるように読んでみましょう。グループ内の人数は関係なく、グループを三つ作りたときは、“Make three groups.”のように、グループの前に数字を入れます。

菅井幸子 すがい さちこ

株式会社イーオン 東京本社法人部 学校教育課 教務コーディネーター

岩手県生まれ。大学卒業後、イーオン入社。

2007年より教務課トレーナーとしてイーオンスクールの教師育成に従事。15年に学校教育課の立ち上げに参加し、全国のエデュコムや学校で、教員向けの英語指導法や英語力アップの研修などを行っている。

Put your desks together.

机を合わせましょう。

ペアやグループでの活動で、机も一緒に動かすときには、この表現を使ってみましょう。このputは「置く」という意味で、“Put your pencil on the desk.”(机に鉛筆を置きなさい)のようにも使えますが、広く「どこかに何かを配置する」という意味があります。今回の表現は「一緒に」という意味のtogetherを伴って「机を合わせる」という指示になります。実際に机を動かしてみせながら、“Like this.”(このようにして)と付け足すと、よりわかりやすいでしょう。

Switch roles.

役割を交替しましょう。

ペア活動には、インタビューなど役割が決まっているものがありますが、役割を両方も練習させたいときに使える表現です。このswitchは「電気のスイッチ」という名詞だけでなく、「交替する」を意味する動詞でもあります。「役割」という意味のrolesが言いづらいときには、“Please switch.”だけでもOKです。日本語の「スイッチ」とは音が違って、sの音の後に、wの音を出せるように唇を前に突き出すようにしましょう。サンドイッチ(sandwich)も同じ音になります。

Find a new partner.

新しいパートナーを見つけてください。

ペアでの活動は、隣どうしや前後の相手との活動だけで終わらないように、この表現を使って、どんどんやり取りに慣れてもらうように促したいものです。「見つける・探す」という意味のfindの後ろにaが続くので、「ファインダ」のような音になります。冠詞のaが抜けないように気をつけて指示を出してください。partnerという単語には、rの音が二つありますが、partの部分は口を大きめに開けて、nerはそれよりは小さく閉じて言うように自然です。

★ここがポイント!!

クラスルーム・イングリッシュを使うときは、ジェスチャーをつけて、指示を聞いている児童が「見たら分かる」ようにしましょう。今回の表現であれば、pairs(2人)やgroups of three(3人)が分かるように指を折って数字を見せたり、switchの意味がわかるように両手を交差させる動きを見せたり、といった具合です。これにより、英語の指示に不慣れた児童も何をすることが分かりやすくなりますし、先生方も体を使うことで表現を覚えやすくなりますよ。

小学校英語お悩み相談室

第4回

本年度から移行期間となった小学校での英語教育。
初めてのことにとまどう先生も多いと思います。先生方のそのお悩みを、
英語教育のスペシャリストである小泉 仁先生が受け止めます。



QUESTION.1

英語の時間だけ
ファーストネームでよぶことに
違和感があります。

A 無理によぶ必要はなし 文化の違いは理解させたい

名字でよぶか、ファーストネームでよぶか、これに関しては一概にどちらが正しいとは言え切れません。先生が普段から子どもたちをファーストネームでよんでいるクラスなら違和感はないでしょうけれども、名字に「さん」を付けてよぶことを基本としている学校もあります。ファーストネームが学校の方針にそぐわないのであれば、英語の時間もそのまま名字でよんでかまわないでしょう。

ただ、日本では、敬意を表すために「名字+さん」でよぶことが基本ですが、それは世界共通の文化というわけではありません。英語圏では、目上の人に対してもファーストネームでよぶことがあります。大学でも、先生自身が学生に「ファーストネームでよんで」と言うことがありますね。お互いにファーストネームでよび合うことにより、人間関係を近づけようとしているわけです。

基本的に、ネイティブのALTにとって、子どもたちにファーストネームでよばれることは、親近感をもってもらっているという意味では、喜ばしいことのはずです。逆に敬称と名字でよばれると、もしかするとよそよそしさを感じてしまうかもしれません。**言葉によって異なるそういった文化の違いを、子どもたちにも理解させられるとよいですね。**

ネイティブのALTと触れ合える機会を最大限に活用し、英語の時間だけは異文化を体験する場として切り替え、ファーストネームでよび合うのも一つの考え方だと思います。子どもたちは、日本とは異なる、英語圏特有のコミュニケーション方法を学ぶことができるはずです。

授業中にどうよぶかについては、先生どうしでしっかりと話し合っ方針を決めるとよいでしょう。名字でよぶと決めた場合でも、ALTにきちんと説明すれば、分かってもらえると思います。お互いに、文化の違いを認めつつ歩み寄る姿勢をもちたいですね。

小泉 仁 こいずみ まさし

東京家政大学教授

元・文部科学省初等中等教育局教科書調査官。

日本児童英語教育学会(JASTEC)会長。

一般財団法人語学教育研究所理事。

中学校英語教科書

『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

どんなお悩みにも
お答えします



QUESTION.2

ローマ字を
英語だと思っている子どもたちに、
どう指導したらよいですか。

A ローマ字は日本語表記の一つ 個々の文字の音を認識させよう

ローマ字は、小学3年生の国語の授業で取り扱います。ローマ字は英語ではなく、アルファベットで表記された日本語なのですが、子どもたちにはそういった区別が難しく、国語の授業でローマ字を学習したら、英語が書ける、読めると思ってしまうことがあります。これからは小学3年生から外国語活動が始まりますので、先生方はより一層、そのことを意識して指導する必要があるでしょう。

ローマ字はアルファベットを用いますが、書かれたものは日本語であり、英語とは仕組みが異なることを子どもたちに理解させる必要があります。国語、英語の両方の時間に、先生が丁寧に説明すべきです。「日本語をローマ字を使って書いても、それは英語ではないんだ」と。

ローマ字は日本語であり、ほとんどの音が「子音+母音」がセットになって表記されま

す。実際、日本語の「さ」は、/s/という子音と/a/という母音の組み合わせで構成されており、それが一つの音として扱われます。

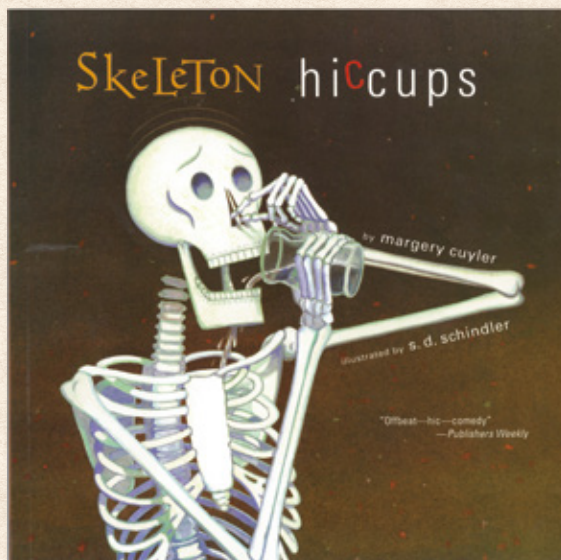
しかし、英語ではあくまでも、子音と母音が別々の音として認識されます。そのため、子音は子音として、母音は母音として区別できることが重要になります。**子音と母音を切り離す練習をすることで、英語特有の発音やつづりはローマ字では表せないことに気づかせられるとよいですね。**

その練習のためには、catやdogなどの3文字の英単語を活用するのがおすすめです。catであれば、caとtに分けるのではなく、c+atと分解して子どもたちに読ませてみる。このように、語頭の子音文字だけを目立たせて練習することで、子音の一つ一つに、どんな音があるのかを意識させます。

なお、小学校の段階では語頭の1文字の練習で十分です。そのうちに、英語のつづりを見慣れて、ローマ字との違いが理解できるようになるでしょう。

子どものためのBOOK GUIDE

— 4 —



SKELETON HICCUPS

著者: Margery Cuyler
イラスト: S.D. Schindler
出版社: Simon & Schuster

今回はガイコツ! 表紙を見せるだけで、子どもに大受けすると思います。それに、最初から最後までずっと、hic hic hicです。しゃっくりです。しゃっくりが止まらないガイコツの悲劇。

シャワーを浴びてると、手からせっけんが飛び出すし、歯を磨いてたら、下あごが飛んでいくし、落ち葉を集めようとしても飛び散るばかり。そんなところに、友達の幽霊がやって来て、いろいろアドバイス。「息を止めてみて」といわれても、ガイコツだし。「砂糖を食べてみて」といわれても、こぼれるし。「目を押さえてみて」といわれても、目ないし。でも、最後は、“The hiccupS left.” よかった!

発想と絵の楽しさと、hic hic hicで読ませる絵本。教科書では教えない、主語省略形が多く、“Had the hiccupS.” “Took a shower.” と続きます。HeともSheともしたくなかったのでしょう。かといって、全てThe skeletonにするとうるさい。そのおかげで、絵本らしいリズムミカルな文章に仕上がっています。

ざっと話の内容をつかんだら、細かいところも見ていきましょう。まず最初のページ。ガイコツのベッドの足のところにはコウモリ、頭のところにはR.I.P.これはRest In Peace (安らかに眠れ) という言葉と教えてもいいのですが、正しくはrequiescat in paceという同じ意味のラテン語です。ガイコツが自分の腕をみがくところでは、Ghost-White Bone Polish「幽霊みたいにまっ白に仕上がる骨磨き」のスプレー缶が置いてあります。ほかに、nothing worked「全て役立たなかった」とか、got smart「はっと気がついた」(生意気なことをする、言うという意味もあるので要注意)とか、小学校の英語ではおそらく出てこない熟語もありますが、覚えておくと、案外と便利です。

そしてなにより、最後のページの、“They jumped away.” が決まっています。絵を見ながら、みんなで、Theyって? と考えるのもおもしろそうです。この絵本に出きたのはガイコツと幽霊。誰か他にいましたっけ?

金原瑞人

かねはら みずひと

岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど500点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

2019年度

「言語教育振興財団」 研究助成金一般公募の お知らせ

助成内容

- ①言語教育の内容・方法に関するもの(教育内容・方法部門)
- ②言語教育教材の質的向上に関するもの(教材部門)
- ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの(教育機器部門)

研究期間

2019年4月～2020年3月(原則1年間)

応募資格

言語教育(国語、英語、日本語等)に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体(学校の学年・教科単位を含む)、上記に準ずると見做される団体及び個人

助成件数及び金額

- ▶助成件数は60件程度
- ▶助成金額は1件につき原則として、20万～40万円

助成金の使途

- ▶助成金の使途は、研究に直接関係するものに限ります。インフラ整備のための物品購入は対象となりません。

一般財団法人「言語教育振興財団」では、小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象とし、今後の情報化・国際化・多様化の進展を踏まえ、言語教育(国語教育・外国語教育等)の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

応募方法・締め切り

- ▶研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、別に定める「助成金交付申請書」を、2018年12月21日(金)必着で、当財団事務局に郵送のこと。
- ▶「助成金交付申請書」を希望される方は、返信用切手(120円)を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。

決定・発表・交付

2019年2月に当財団「選考会」にて選考を行い、選考結果は2019年3月末までに文書にて通知します。交付は、2019年4月末までに指定された金融機関に振り込みます。

問い合わせ先

一般財団法人
言語教育振興財団 事務局
〒141-0021
東京都品川区上大崎2-19-9
TEL&FAX 03-3493-7340
E-mail: gengo-k@star.ocn.ne.jp



今日から
すぐ使える！

小学校英語授業のための特設コーナー

「先生のための小学校英語ABC」のご案内

光村図書ウェブサイトでは、小学校の英語の授業に
お役立ていただける特設コーナーを開設しました。授業に悩んでいるとき、
新しい学習素材を探したいときなどに、ぜひご利用ください。



HELLO! 世界の友達

世界各国で実際に生活する小学生のメッセージを紹介します。多様な文化や価値観に触れるきっかけとなる学習素材で、授業で活用することもできます。



今後も、授業に役立つコンテンツを随時アップ予定！



TRY! クラスルーム・イングリッシュ

小学校の英語の授業では、どんな場面で、どんな英語を使ったらいいのでしょうか。土屋佳雅里先生(杉並区小学校英語講師)とジョージ・クマザワ先生(昭和女子大学附属昭和小学校専任講師)が、今日からすぐに使えるフレーズを教室でのさまざまなシーンごとにご紹介します。



移動中の
電車の中で、
外出先で、ぜひ
ご覧ください。



小学校の英語教育Q&A

はじめて小学校で英語を教える先生方の悩みや疑問に、英語教育のプロがお答えします。



ENJOY! 歌とリズム

授業で使える歌やチャンツをご紹介します。